宮柊二記念館だより

２０１８．３．１５
第　48　号
発行　宮柊二記念館
TEL･FAX
025－794－3800

平成30年２月　雪中花水祝会場

ハトかざりに願いを込めて

「大雪が予想される」と報じられた今冬…

一月中旬まではおだやかに経過したものの、南岸低気圧による首都圏の降雪のあと、襲った大寒波はあっという間に積雪が二メートル超となりました。でも…立春も過ぎ、「春はもうそこ」と感じさせる季節となりました。

さて、当館のメイン事業である「全国短歌大会」、今回は選者に高野公彦先生、米川千嘉子先生をお迎えし、十一月十一日㈯に盛会のうちに開催することができました。当日の運営にご協力いただいた皆さまをはじめ、ご応募くださった皆さまに厚く御礼申しあげる次第です。

近年は十一月開催が定着している短歌大会表彰式ですが、一時期二月十一日の建国記念の日にあわせて実施したことがありました。この日は、雪に埋もれ、白一色の町に赤、黄、緑のハト飾り、あでやかな衣装を纏った行列とご神体神輿が繰り出し、よさこい演舞で盛りあがった後、前年に結婚した新婿がご神水を浴びる奇祭「越後堀之内雪中花水祝」とが重なり、静かなまちが一変、大変な盛り上がりを見せる一日でもあります。

八幡さまの境内の雪に
　華やかに豊年鳩の枝は映えゐむ（『白秋陶像』）

当館では、開館以来「展示替えは年一回」を基本としてきましたが、本年度は「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」とし、前、後期の二期に分け、前期では第一歌集『群鶏』から第六歌集『多く夜の歌』まで（～十二月）、一月からは第七歌集『藤棚の下の小室』から最終第十二歌集『白秋陶像』までを紹介いたしております。

設定したテーマは二度目となりましたが、前回紹介できなかった新資料も展示しております。是非ご鑑賞くださいますようお待ちしております。

報告

第二十三回宮柊二記念館全国短歌大会

一二、二七八首の応募

【一般の部】

最優秀賞

雪玉が風にころがりをりし田の起こされて黒き土の鋭角　新潟県　新潟市　加藤かづゑ

選者賞（高野公彦 選）

胴吹きの花のかたえに車いす寄せて触れさす桜いちりん　東京都　杉並区　淺田みどり

選者賞（米川千嘉子 選）

背伸びして十五歳の孫をハグすれば吾が目の前にアダムのりんご　岐阜県　飛騨市　神出　典子

【ジュニア部門（小学生の部）】

最優秀賞

少しでねつらくなったよしりょうかんたくさんあったひばくしゃの服　新潟県　見附市立今町小　小川　苺華

選者賞（高野公彦 選）

オレンジの強い光が差す黒板あと数か月で巣立つ教室　新潟県　新潟大学附属長岡小　小林　博香

選者賞（米川千嘉子 選）

弟がぜったい自分でやりたくてうしろにかくした大きな花火　新潟県　魚沼市立堀之内小　関　姫

【ジュニア部門（中学生）】

選者賞（高野公彦 選）

くわを手に汗流しつつ農作業まめの分だけしあわせになる　宮城県　名取市立第二中　郷　沙智子

選者賞（米川千嘉子 選）

初めての天橋立自転車で潮風浴びて受験後の夏　神奈川県　中央大学附属横浜中　圓谷　泰平

【ジュニア部門（高校生）】

最優秀賞

青空のうまれるにおい濡れながら君と走った証拠が消える　茨城県　茨城県立下館第一高　大幡　浅黄

選者賞（高野公彦 選）

母さんが育てたポプラの木も枯れて家族の形引き算続く　新潟県　東京学館新潟高　林　康之助

選者賞（米川千嘉子 選）

湯船から零れる湯の量父さんの単身赴任の生活思う　新潟県　東京学館新潟高　河原　時継

第二十三回全国短歌大会は、平成二十九年十一月十一日㈯、選者に高野公彦先生（コスモス短歌会）、米川千嘉子先生（かりん）をお迎えし、堀之内公民館を会場に三百人を越える皆様の参加をいただき盛大に開催することができました。応募総数は一二、二七八首で、多くの応募が寄せられました。

平成三十年度も第二十四回となる短歌大会を予定しています。五月一日から応募受付を開始し、一般の部は七月三十一日、ジュニアの部は九月六日が締め切りの予定です。なお、表彰式については、今回同様に開催日を土曜日として計画しています。

近年はマスコミ等でも、短歌がとりあげられる機会が増えているように感じられます。今回の大会でも中学生の応募は昨年より増えており、若年世代が短歌にふれる機会が増えているものと思われます。

こういった状況のなか、宮柊二記念館短歌大会も、大きな大会にしていきたいと考えています。大勢の皆様の参加をお待ちしています。

第23回　短歌大会　応募状況

区　分	応募作品数	応募者数
一般の部	1,103首	467人
ジュニアの部	11,175首	5,786人
（小学生）	2,558首	1,319人
（中学生）	4,470首	2,301人
（高校生）	4,147首	2,166人
総　数	12,278首	6,253人

【選者のことば】

素直懸命に詠まれた短歌

高野公彦

宮柊二記念館の主催する全国短歌大会も、今年で二十三回目を迎えました。今回も作品募集に対して、たくさんの短歌作品が寄せられました。まことにありがたく嬉しいことです。回を重ねて、この短歌大会の存在が、地元の新潟県の人々にしっかりと認識され、のみならず全国的にも広く認識されるようになっていることが分かります。

この大会を企画し運営する宮柊二記念館の皆さま方、また企画に賛同してお力添えをしてくださった魚沼市役所、新潟日報、また新潟県内外の学校関係の皆さま方に心より御礼申し上げます。宮柊二先生が創刊した短歌雑誌「コスモス」に集う私たちは、この短歌大会が開催されることを誇りに思っています。

そしてこの短歌大会に作品をお寄せくださった全てのかたがたに御礼申し上げたいと思います。たくさんの応募作があってこそ大会が成り立ちます。私は深い感謝の念をいだきつつ作品の選歌を致しました。

作品は、一般の部、ジュニアの部（高校生、中学生、小学生）によって内容がかなり異なります。日々の生活の違いや年齢の違いが短歌に現われますし、同じ年齢でも心に浮かぶ感情は一人一人違っています。そうした違いを読んで楽しみながら選歌を進めました。

わが歌は田舎の出なる田舎歌
素直懸命（すなはけんめい）に詠（うた）ひ来しのみ

宮　柊二『純黄』

宮先生にこんな作品があります。謙遜の気持ちを詠んでいますが、「素直懸命」は本音でもあるでしょう。今回の応募作も、多くは素直懸命に詠まれています。その意味で、どの歌も十分価値があるものです。

でも、大会は作品の優劣を決めるコンクールです。米川さんと私が審査員となって入選作、秀逸、佳作などを決めました。そこに入らなかった作品も決して無価値なものではありません。また機会があったら「自分の短歌」を作ってみてほしいと思います。

―「入選作品集」より再掲

高野公彦（たかの　きみひこ）

1941年、愛媛県生まれ。

大学在学中に作歌を始め、「コスモス」に入会し、宮柊二先生に師事。卒業後、出版社編集部に勤務した。現在「コスモス」選者・編集人。これまで『汽水の光』から『流木』まで十五冊の歌集を刊行。ほかに評論集『地球時計の瞑想』『歌の回廊』、秀歌鑑賞書『わが秀歌鑑賞』『わが心の歌』、入門書『短歌練習帳』など。2011年より新潟日報歌壇の選者。

【選者のことば】

しいんと、ゆっくり

米川千嘉子

魚沼市堀之内―、学生時代から宮柊二の作品も読み返し何度も心に思い浮かべていた私にとってほとんど歌枕のような地名です。この度、伝統ある宮柊二記念館全国短歌大会の選者にお声をかけていただき、その地でみなさんにお目にかかれることを、光栄にありがたいことと思っております。

幅広い年代の膨大な作品を拝見して、超高齢社会、渾沌として未来への展望がむずかしい時代の、それぞれの喜びや孤独や不安をつぶさに見る思いでした。

短歌の第一のすばらしさは、ふだん何気なく使い流している言葉を、定型のかたちで短く取り出しふくらませて、その豊かさや楽しさを味わえることだと思っています。もう一つのすばらしさは、短歌が自分や他者や世界の小さなきりとり窓であること。歌を詠むことは自分や他者や世界を大切に丁寧に思うことにほかならないような気がします。いかにも小さな場面でも、そこに人間というものを発見し、そのことによって自分自身をより深く生きることが出来るといったら大げさかもしれませんが、たとえば宮柊二はその深さにおいて他の追随を許さない存在だったと思います。

小学生から高校生までの作品に目を通しながら、八年ほど高校の教壇に立っていた頃のことを思い出しました。５７５５７７を新鮮に楽しんだ子もいれば、本当の自分を見せることに恥ずかしさや不安を感じる人もいたようです。ＳＮＳの時代のまっただ中を生きて、「笑」や「いいね」で瞬間的に反応することの空しさを感じる作品もありました。そうであればこそ、ＳＮＳの瞬間反応の言葉ではなく、古い短いこの詩型で、しいんと、ゆっくり、言葉と自分と世界に向かいあう体験を大切にしてもらえたら、と思います。

―「入選作品集」より再掲

米川千嘉子（よねかわ　ちかこ）

1959年、千葉県生まれ。

大学在学中に短歌をはじめ、「かりん」入会。馬場あき子に師事。歌集に『夏空の櫂』『たましひに着る服なくて』『滝と流星』『あやはべる』『吹雪の水族館』など。現代歌人協会賞、若山牧水賞、短歌研究賞、迢空賞など受賞。歌書に『四季のことば一〇〇話』『親子で楽しむ子ども短歌教室』『「無名抄」を読む』（共著）ほか。毎日歌壇選者。

「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展

一月から再オープン

『藤棚の下の小室』～『白秋陶像』に

「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展は、十二月に展示替え作業を行い、一月から第七歌集『藤棚の下の小室』～第十二歌集『白秋陶像』までに関する資料を展示をしています。

前半の展示をご覧いただいた方もぜひ再度お越しください。大勢の皆様の来館をお待ちしております。

『藤棚の下の小室』『獨石馬』『忘瓦亭の歌』の頃

昭和三四年に会社を退職し、歌人に専念することとなった柊二は、それ以降、作歌数が飛躍的に増えることとなりました。また、コスモスの大会なども含め、全国各地への短歌の指導に積極的に足を運ぶ機会も増え、歌人としての活動が従前にも増して多くなった時期でもあります。

昭和四七年から五三年に刊行されたこの三冊の歌集は、いずれも一、〇〇〇首を超える大冊です。

一方、晩年まで柊二を苦しめることとなる糖尿病などの病が悪化しはじめる時期でもあり、しだいに老いと向き合う歌も増えてきます。

『緑金の森』『純黄』『白秋陶像』の頃

柊二の最晩年に相次いで刊行されたのがこの三冊です。昭和六一年に亡くなるまで、柊二は病に苦しみながらも作歌をつづけます。また、コスモス短歌会の選歌、そして新聞や雑誌の選歌も限界まで取り組んでいました。

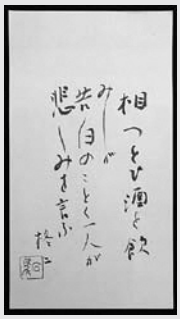
この歌集は、病の床にあった柊二にかわり、英子夫人の手によってまとめられたものです。

展示資料紹介

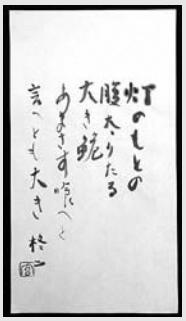
「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展は、１月に展示替えを行い様々な資料を展示しております。

宮柊二書

昭和38年５月に堀之内やな場を訪れ一泊した折に詠んだ歌30首をのちに野沢徳衛氏が「水のほとり」としてまとめられました。今回の展示では、その中の２首を展示しております。



相　つとひ　酒を飲
みしが
告白のことく一人が
悲しみを言ふ
柊二



灯のもとの
腹太りたる
大き鮠
あまさす喰へと
言へとも大き　柊二

平成29年度 事業報告

今年度は「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展、第23回となる短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

29年度実施事業について

◎5月13日
「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展
オープンセレモニー（テープカット）
記念講演 「『宮柊二歌集』概観」
講　　師　狩野一男 氏

◎7月1日～8月20日
第22回全国全国短歌大会ジュニア部門特別賞展

◎7月23日
講演会 「『小紺珠』の周辺」
講　師　岡崎康行

◎8月5日～8月20日
俵山庸作絵画展

◎9月9日～9月24日
坂西徹朗版画展

◎11月11日
第23回宮柊二記念館全国短歌大会
選者講評　高野公彦 氏　米川千嘉子 氏

◎11月11日～12月15日
短歌大会選者・特別受賞者直筆色紙展

◎1月21日
短歌セミナー
講演会 「『晩夏』『日本挽歌』を読む」
講　師　田宮朋子 氏

市内学校で短歌出前教室を行いました。
◎7月20日・24日　　小出高等学校
◎8月29日・30日　　堀之内小学校

短歌セミナー「『晩夏』『日本挽歌』を読む」

1月21日、歌人の田宮朋子先生を迎え「『晩夏』『日本挽歌』を読む」と題して短歌セミナーを開催しました。歌集によって異なる表現等について、作品を通じて解説いただきました。

第23回短歌大会特別賞受賞者展

第23回短歌大会の選者・高野公彦先生、米川千嘉子先生の作品色紙をはじめ、今大会で特別賞を受賞された皆さまの直筆作品を11月11日から12月15日まで、一階ホールで展示させていただきました。

平成三十年度 宮柊二記念館 事業計画

企画展示では、『小紺珠』をテーマに行う予定です。また、全国短歌大会をはじめ、多くの方々に当館を知ってもらえるよう活動を展開します。

◎平成三十年度　企画展示

・テーマ　柊二、『小紺珠』のころ（仮題）
・期　間　六月十六日㈯～

◎第二十四回　全国短歌大会

・募集開始　五月一日㈫
・締め切り
一　般　の　部　七月三十一日㈫
ジュニアの部　九月六日㈭
・内　容
作品は二首　一、〇〇〇円
海外からの応募、ジュニア部門（高校生以下）は無料。

【短歌大会】（表彰式）
・日　時　十一月十七日㈯
・会　場　堀之内公民館
（魚沼市堀之内一三〇）

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など各種事業を行っていく予定です。

還暦祝着
（ちゃんちゃんこ・大黒頭巾）

宮柊二記念館収蔵資料紹介　No.48

昭和47年８月23日、宮柊二の還暦を祝う会が堀之内やな場を会場に開催されました。その際に、コスモス短歌会からお祝いの品として贈られたものがこの還暦祝着です。

記念館前館長
平澤憲一さん死去

宮柊二記念館元館長の平澤憲一さんが12月22日、77歳で亡くなりました。

平澤さんは２０００年４月に３代目館長に就任し、２０１０年３月に病気で退任するまでの10年間、全国短歌大会等の運営に手腕を発揮されました。館長退任後も闘病しながら短歌教室に参加されるなど記念館事業にご協力いただきました。故人のご冥福を心よりお祈りいたします。

「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、「友の会」会員を募集しています。年会費は１，０００円です。

くわしいことは、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第48号
発　行　2018．3．15
問合せ　宮柊二記念館（〒949-7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　０２５－７９４－３８００
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji